

令和7年度 新温泉町学校のあり方検討委員会視察研修

1 目的

少子化が急速に進む新温泉町にとって、児童生徒を中心に据えた「最善の教育環境を整える」という視点で望ましい学校のあり方について総合的に検討するため、先進的に取り組む地域を視察する。

2 第1回目

令和7年10月3日(金) 9時00分～12時00分 ※参加者8名

【養父市立関宮学園】 〒667-1111 養父市吉井 180

- ・義務教育学校【前期課程の児童数 123、後期課程の生徒数 66】
- ・1年生から9年生までの一貫教育（9年生は中学校の3年生と同年齢）
- ・校長1名、教頭3名、養護教諭2名、事務職員2名



【養父市立建屋小学校】 〒667-0142 養父市建屋 1048

- ・小規模特任校【児童数 51】
- ・養父市全域から通学が可能な小規模特任校
- ・校長1名、教頭1名、養護教諭1名、事務職員1名



3 第2回目

令和7年11月19日(水) 9時00分～12時00分 ※参加者7名

【豊岡市立竹野学園】 〒669-6201 豊岡市竹野町竹野 2056（前期課程の住所：竹野 300）

- ・義務教育学校【前期課程の児童数 131、後期課程の生徒数 67】
- ・1年生から9年生までの一貫教育（9年生は中学校の3年生と同年齢）
- ・校長1名、教頭3名、養護教諭2名、事務職員2名



【豊岡市立八代小学校】 〒669-5337 豊岡市日高町中 320-1

- ・小規模特任校【児童数 11】（完全複式学級）
- ・豊岡市全域から通学が可能な小規模特任校
- ・校長1名、教頭1名、養護教諭1名、事務職員1名



【視察概要（養父市）】

養父市は、市全体で小中連携を進めてきた実績がある。

◆関宮学園

義務教育学校設置に関しては、関宮小学校に関宮中学校が、耐震工事時に間借りをしたことも契機となった。耐震工事でかなり連携を深めることができ、義務教育学校に移行しやすかった。

現在の義務教育学校は、小学校と中学校の職員室を一体化し、常に連携が図れるようにしている。小学6年生は週1回中学校の校舎に入って学習をし、50分授業を受けている。そのため、中学校の授業にスムーズに移行しやすく中1ギャップを防ぐことにつながる。また、教員は、小学校と中学校の授業をお互いに見る機会が多いため、互いが刺激し合い、授業力向上につながっている。

運動会の行事は認定こども園、小学校、中学校、地域と合同で行われ、地域全体で学校を盛り上げる雰囲気醸成されている。認定こども園が隣接されていることも、日常的に体育館を借りるなど、連携を図りやすい体制が整っている。日常的な連携は、認定こども園から中学校卒業まで一貫した教育を行いやすい。

◆建屋小学校

建屋小学校は小規模特認校として実績を挙げている学校である。グローバル教育とローカル教育を合わせた「グローバル教育」に力を入れており、その教育方針に魅力を感じる保護者は増えている。そのため設置してから、児童数は増加している。現在の在籍する児童の約半数は、校区外から登校している児童である。市の補助として、児童が登校しやすいようにバスの送迎を行っている。地域局から学校まで直通のバスを走らせているほか、地域局まではシルバー人材センターを活用し、居住地近くから子どもたちを送迎している。

【視察概要（豊岡市）】

豊岡市においても養父市同様、市全体で小中連携を進めてきた実績がある。その流れのなかで統廃合に関する計画も作成され、今回視察した竹野学園や八代小学校の取組が行われている。竹野学園に関しては、小学校の統廃合の計画段階から段階的に義務教育学校を設置する流れはできていた。八代小学校に関しては、期限付きで小規模特認校を実施するという計画であった。但馬全体の大きな問題である人口減少による運転手不足やバスの路線廃止等は、学校の統廃合に大きな影響与えていることも理解できた。

◆竹野学園

竹野学園は、義務教育学校として小中学校の連携方針を明確にしている。学校行事では、中学生が上級生として、後輩たちの面倒を見ている。また、現在、小学校の校舎を増築しているため、その工事現場を視察した。中学校の校舎では、手洗い場の高さなどが小学生に合わないため、実際の現場では小学校の実態に合わせた規格となっていた。

◆八代小学校

八代小学校は、当初、統廃合をする予定であったが、地域の要請により、小規模特認校としての道を選ぶこととなった。ただし、期限付きということである。特色としては、伝統的に行われていた太鼓や、一輪車などが実施されている。他地域から来ている子どもは1名であり、送迎は保護者が行っている。

【視察研修を終えて】

義務教育学校にしても、小規模特認校にしても、自治体全体としての教育方針がしっかりと確立されていなければならない。小学校から中学校までの間に、どういう子どもを育てたいのか、その目標や子ども像をしっかりと定め、地域全体で子どもを育てる意識を醸成することが重要である。また、設置する方向性が決まれば、説明会を丁寧に行い、地域の協力体制が十分に図られる必要がある。小規模特認校に関しては、その市町全体から子どもが登校できる制度のため、子どもの取り合いになるというデメリットがある。他方で、小規模の学校によるきめ細かい教育ができるメリットもある。いずれにしても、保護者や地域が特色ある学校を求めているのであれば、そのメリット、デメリットを十分に説明し、設置に向けた準備を重ねる必要がある。